# 天文月報 第四卷目次

## 第壹號


天體と陽炎（理學士關口鯉吉） 一
曆と天文智識（理學士橋元昌矣） 四
太陽の全雰圍氣の逐次的開披（デラントル述小川清彥譯） 五
雜　報
空間に於ける吸收物質 一一
蜥蜴座新星 一一
掩蔽觀測 一一
東京で見える星の掩蔽 一一
四月の惑星だより 一二
流　星　群 一二
四月の天 一二


## 第貳號


退任に際して（編輯主任一戸直藏） 一三
報時の信號（田代庄三郎） 一五
太陽全雰圍氣の逐次的開披（續き）（デラントル述小川清彥譯） 一七
雜　報
ヘルクレス座u星の變化につき 二一
ハリー彗星の核の旋轉 二一
地球の半徑 二一
火星の衛星 二一
曆法改革 二一
恒星の直徑 二二
永續せる紅焰の回轉の角速度 二二
蜥蜴座新星のスペクトル 二二
日本天文學會第六定會記事 二三
東京で見える星の掩蔽 二三
五月の惑星だより 二四
流　星　群 二四
五月の天 二四


## 第參號


西暦紀元三七三年及び三七四年の彗星に就て（理學士平山清次） 二五
ガリレイ（一）（理學士本田親二） 三〇
雜　報
東京の烟霧 三三
エンケ彗星 三三
ハリー彗星 三三
佛國新標準時 三四
コーエル氏 三四
小笠原島の經度測定 三四
四月二十九日の皆既日食 三四
ペルセウス座o星のスペクトル及び其軌道につき 三四
天文月報發行日の變更 三五
天文學談話會記事 三五
東京で見える星の掩蔽 三五
流　星　群 三五
六、七月の惑星だより 三六
六月の天 三六


## 第四號


仰釜日晷（理學士和田雄治） 三七
嚴密天文學の目的（エス、エス、ハッフ述） 三八
雜　報
帝國學士院第一回受賞者 四三
一戸直藏氏の博士論文 四四
天文學年報 四五
太陽の黑點 四五
木星による恒星の掩蔽 四五
連星の離隔度と光度の關係 四六
彗星の尾の型 四六
暦の改革一案 四六
太陽紅焰の寫眞的觀測 四六
木星の第八衛星 四六
スペクトル分類より見たる二星流説 四七
火星と土星の合 四七
星の視線速度の數例 四七
天文學談話會記事 四七
東京で見える星の掩蔽 四七
八月の惑星だより 四八
流　星　群 四八
八月の天 四八


## 第五號


月の大小の配置に關する改良案（帝國學士院會員寺尾壽） 四九
我太陽系の擴張事業（理學士早乙女清房） 五〇
雜　報
ウオルフ彗星 五四
一九一一年b彗星 五四
地軸の變位 五五
太陽向點の新決定 五五
月の各點の光の差異 五六
惑星の直徑 五六
分光儀的連星ペルセウス座o星について 五六
白鳥座α星の視線速度 五六
十等星の固有運動 五七
奇異なる流星現象 五七
彗星は單に光學的現象なりや 五七
上層大氣の研究 五七
星の速度及大さの寫眞的測定 五七
變光星の分布 五八
オリオン星の運動 五八
太陽コロナに認むる流線の器械的生成 五八
存在せざるBD星 五八
質量の變化と天文學 五八
アルゴルと其伴星の實光力及有効溫度につき 五九
濠洲に於ける太陽觀測所 五九
ハリー彗星 五九
一八九二年V彗星 五九
木星による恒星の掩蔽觀測 五九
東京で見える星の掩蔽 六〇
九月の惑星だより 六〇
流　星　群 六〇
九月の天 六〇


## 第六號


素人觀測家に（理學士關口鯉吉） 六一
ガリレイ（二）（理學士本田親二） 六六
雜　報
一九一一年e彗星 六九
太陽の距離 六九
月の距離の新決定 六九
ホルトガルの標準時 六九
火星の觀測 六九
木星の赤斑の變動につき 七〇
大なる流星 七〇
彗星出現の嚆に就て 七〇
恒星自轉の決定 七〇
二重量の定義 七〇
アルゴル伴星の光について 七〇
螺狀星雲の形 七一
星雲の視線速度につきて 七一
星雲研究用のインターフエロメーター 七一
東京で見える星の掩蔽 七一
十月の惑星だより 七二
流　星　群 七二
十月の天 七二


## 第七號


雲と濛氣差（理學士橋元昌矣） 七三
極地に於ける經緯度測定法（理學士關口鯉吉） 七四
雜　報
十月二十二日の日食 七七
一九一一年e彗星 七八

エンケ彗星 七八
ポンリー週期彗星 七八
一九一一年f彗星 七八
一九一一年g彗星 七九
夜光雲の出現 七九
夜光霧について 七九
日本にて見たる夜光雲 八〇
東京の時刻しらべ 八〇
長時間浮遊せる太陽紅焰について 八一
一九一一年b彗星のスペクトル 八二
恒星の視差 八二
北極星の變光性につき 八二
クーン山の隕石につき 八三
天文學談話會記事 八三
東京で見える星の掩蔽 八三
十一月の惑星だより 八四
流星群 八四
十一月の天

第八號

球狀星團と瓦斯球論（理學博士平山信） 八五
空間、時及力に關する最新研究（フィッタッカア） 八七
太陰曆の廢滅に就て（有田邦雄） 八九
雜報
一九一一年e彗星 九一
一九一一年f彗星 九一
一九一一年g彗星 九二
氣候と太陽の狀態 九二
四十五年曆の發行 九二
一年間に於ける流星の每時目擊數 九三
日食中氣溫の變化 九四
北光の高さの寫眞的測定 九五
蜥蜴座新星と其スペクトル 九五
天文學談話會記事 九五
日食觀測 九五
東京で見える星の掩蔽 九九
十二月の惑星だより 九六
流星群 九六
十二月の天 九六

（第四卷總目次）

第九號

太陽の形狀（理學博士一戸直藏） 九七
天文學新攻究法（ヘンケル） 九九
雜報
新彗星の發見 一〇三
一九一一年e彗星 一〇四
金星自轉週期につきて 一〇四
天王星及び小惑星エスタの肉眼觀測 一〇四
スペクトルより推算せるハリー彗星の視線速度 一〇四
アルゴル系統の變光星ベルセウス座RT星につき 一〇四
特種の恒星スペクトルと恒星界に於ける光の選擇吸收 一〇四
黃道光の觀測 一〇五
根室の經度測量 一〇五
佛國天文學界の經費 一〇五
平山清次氏の博士論文 一〇五
田代庄三郎氏の榮轉 一〇五
明治四十五年各種曆の對稱表 一〇六
日本天文學會定會記事 一〇七
星の掩蔽觀測 一〇七
東京で見える星の掩蔽 一〇七
一月の惑星だより 一〇八
流星群 一〇八
一月の天 一〇八

第拾號

書雲觀志（理學士和田雄治） 一〇九
太陽の形狀（承前）（理學博士一戸直藏） 一一一
長期天氣豫報につき（リカード） 一一四
雜報
綱曆に關する萬國會議 一一五
變光星の協同觀測につき 一一五
珍らしき月の經過 一一五
火星の色寫眞 一一六
大なる運動を示せる彗星棒物體の觀測 一一六
相蝕變光星としての馭者座β星 一一七
一新小惑星發見の話 一一七
雲のアルベード 一一八
流星經過の跡に殘れる輝ける線條の原因 一一八
夜空の明るさにつき 一一八
伊太利の大火球 一一八
土星の環に關する一新說 一一九
一九一一年e彗星 一一九
星の掩蔽觀測 一一九
東京で見える星の掩蔽 一一九
二月の惑星だより 一二〇
流星群 一二〇
二月の天 一二〇

第拾壹號

地球內部の構造に就て（上）（理學博士寺田寅彦） 一二一
支那曆とギリシャ曆（理學博士平山清次） 一二五
雜報
佛國の新太陰表 一二七
東京天文臺年報 一二八
佛國巴里學士院の賞典 一二八
土星の色寫眞 一二八
恒星を包む星雲 一二九
白鳥座α星の視線速度につき 一二九
視線速度決定法の精度 一二九
流星觀測組合設立の建議 一二九
銀河が二つ 一二九
ポンリー彗星 一二九
一九一一年h彗星 一三〇
應問 一三〇
天文學談話會記事 一三〇
星の掩蔽觀測 一三一
東京で見える星の掩蔽 一三一
三月の惑星だより 一三一
流星群 一三二
三月の天 一三二

（二）

第拾貳號

地球內部の構造に就て（下）（理學博士寺田寅彦） 一三三
空の明るさ（理學士關口鯉吉） 一三六
雜報
火星の消息 一三九
臺灣地方に於ける月帶食 一四〇
四月十七日の日食 一四〇
土星の環に於ける變動 一四〇
外惑星のスペクトル 一四〇
エンケ彗星 一四〇
ハリー彗星の尾の光輝の分布狀態 一四一
シャウマス彗星は週期的彗星なるべきか 一四一
彗星の光力の變化 一四一
變光星の分布 一四二
氣象諸話會の綜業書 一四三
大流星の古記錄 一四三
アンドロメダ座流星群觀測 一四三
蟹子座新星 一四三
東京で見える星の掩蔽 一四三
四月の惑星だより 一四四
流星群 一四四
四月の天 一四四

挿入寫眞圖

太陽全蝕圖氣各層の單色寫眞 八、一七、一八、一九
ガリレイ 三一
仰釜日晷 三八
ウキルヤムハーシル 五一
ルベリエ 五二
アダムス 五三
ケプレル 六七
一九一一年e彗星 七八、九二
ヘルクレス星團 八六
ケンタウルス星團 八七
珍らしき月の經過 一一六
火星 一四〇
外惑星のスペクトル 一四一